

## 校 園 別 研 究 目 標

「校園別研究目標」は、校種別に各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動などの課題を示したものである。

学習指導に当たっては、幼児・児童・生徒一人一人の実態を的確に把握し、個々の状況に応じた指導・支援を行うために、学習活動、学習形態、評価方法及び教材・教具などを工夫することや、幼児・児童・生徒一人一人が意欲をもって自ら考え、判断し、表現できるような指導方法・指導体制の工夫改善を図り、学び方を身に付け、学ぶ楽しさを実感できる授業の展開に努めることが重要である。

また、小中一貫した教育をはじめとする校種間連携を一層推進するため、全ての教科・領域において、校種間の円滑な接続を図るための研究に努めることが大切である。

なお、新しい教育要領、学習指導要領が平成 30 年度より各校種で順次完全実施されていることに伴い、各校園において適切に教育課程が編成され、実施されるよう研究に取り組むことが大切である。

### ◇ 小 学 校

#### (1) 国 語

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域において、日常生活に必要とされるさまざまな言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する能力を身に付けることができる指導方法について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、児童が身に付けた知識及び技能などを活用して課題を探究することができる学習形態や指導方法について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、一人一人のよさを認め、それを生かすことができる指導計画、学習評価のあり方について研究する。

#### (2) 社 会

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、児童が社会とつながる教材、とりわけ問いをもって追究し社会生活に生かすことができる教材の開発、社会的事象の見方・考え方を働かせて考えを深めるなど指導方法の工夫を行うとともに、問題解決的な学習を一層充実させることを通して、社会的事象について調べまとめる技能や、社会への関わりを選択・判断する力を高める指導のあり方について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、問題解決的な学習過程の構成や児童が問いを追究する指導法を工夫し、社会的事象の見方・考え方を働かせながら知識や概念を習得することを重視するとともに、それらを活用し、よりよい社会を考え学習したことを生かす指導のあり方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、児童一人一人の学習状況を的確に評価し、その結果を児童への即時支援やその後の授業改善に生かす学習評価のあり方について研究する。

#### (3) 算 数

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、児童が数学的な見方・考え方を働かせ、自分で工夫して問題を解決したり、新しい考え方や処理の仕方を生み出したりすることができる指導のあり方について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、数学的活動の一層の充実を図るようにし、日常生活における事象を算数と関連付けて考察したり、考えを表現し伝え合う活動を積極的に取り入れたりして、数学のよさに気付くことができる指導のあり方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、児童が学習の過程と成果を振り返り、よりよく問題解決できたことを実感する機会を設けるようにするとともに、児童の学習状況を把握して、学習指導の改善に生かすことができる学習評価のあり方について研究する。

#### (4) 理 科

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事象・現象についての理解を深め、主体的・協働的な学びの中で科学的に問題解決する力を育成する指導のあり方について研究する。

イ 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養うために、児童一人一人が粘り強く他者と関わりながら、自然の事物・現象に進んで関わろうとする指導のあり方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、目標に準拠した観点別学習状況の評価を一層重視し、児童の学習改善と教師の指導改善につながる学習評価のあり方について研究する。

#### (5) 生 活

ア 知識及び技能の習得と活用を図り、思考力、判断力、表現力の基礎を養うために、具体的な活動や体験を一層重視し、身近な人々、社会及び自然とのかかわりを深め、多様な表現方法で交流する活動を活性化することで、気付きを深めることができる指導方法について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、一人一人の興味・関心に基づいた思いや願いを大切に、単元目標を明確化・具体化した到達目標を明らかにすることで、意欲を高める指導のあり方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、単元で育てたい具体的な児童の姿を明確にして、児童の活動や体験そのものを多面的に見取り、成長をとらえることができる学習評価のあり方について研究する。

#### (6) 音 楽

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるための指導方

法や、音楽表現を工夫し音楽を味わって聴くことができるようにする指導の在り方について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うための指導方法を研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、児童の学習の達成状況を的確に把握するために、一人一人のよさを認め、それを活かす指導計画、評価規準や評価の具体的な方法について研究する。

## **(7) 図画工作**

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、対象や事象を捉える造形的な視点を育み、材料や用具を適切に使い創造的につくったり表したりできるようにするとともに、造形的なよさや美しさ、表したいこと表し方などについて創造的に発想や構想し、自分の見方や感じ方を深めることができる題材や指導方法について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、児童自らがつくり出す喜びを味わい、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度や豊かな情操を養う指導の在り方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、児童一人一人が本来持っているよさや可能性を捉え、それらを生かすことのできる学習過程の工夫や評価のあり方について研究する。

## **(8) 家庭**

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、家族や家庭、衣食住、消費や環境に関する実践的・体験的な活動を通して日常生活に必要な基礎的な理解を図り技能を身につけるとともに、日常生活の中から問題を見出し、課題を解決する力を養うことができる指導方法について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う指導の在り方を研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、児童の学習の成果を的確に評価するために、目標に照らして実現状況を把握し学習指導の改善に生かすための評価のあり方について研究する。

## **(9) 体育**

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、児童の発達段階に応じて、教えるべき内容と考えさせる内容を明らかにするとともに、仲間や運動と豊かに対話しながら自らの課題を解決しようとする指導のあり方について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、児童の能力や適性、興味や関心等に応じた運動の楽しさや喜びを味わわせるとともに、進んで体力を高めるための実践力を育成する指導のあり方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、児童の実態を的確に把握し、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の観点から具体的評価規準を作成するとともに、いつ、どのような方法で行うのが適切か等、学習評価のあり方について研究する。

#### (10) 英語

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、たくさんの英語音声のインプットを重視し、言語活動を通して、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる指導方法について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、英語を用いて、コミュニケーションを図る楽しさや大切さを感じることでできる指導のあり方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、できるようになったこと・わかったことを児童自らが認識し、次への指導に生かすことでできる評価のあり方について研究する。

#### (11) 道徳

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面多角的に考え、自己の生き方についての考えを深め、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことができる指導の在り方について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、問題解決的な学習、体験的な学習を取り入れるなど、教材に応じて効果的な学習を設定し、多様な指導方法を工夫する。児童が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、物事を多面的・多角的に考えたり、自分の問題として自己を見つめたりすることができるような指導の在り方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、明確な意図をもって指導の計画を立て、授業の中で予想される具体的な児童の学習状況を想定し、学習指導過程や指導方法を工夫する。道徳的価値に関わる道徳性を養うために、「考え、議論する」道徳の授業を行い、その指導の工夫により表出した児童の学びの姿を継続的に把握し、評価していく。さらに、授業の振り返りの観点を立て、授業改善や児童の成長に生かしていくことができる学習評価の在り方について研究する。

#### (12) 総合的な学習の時間

ア 知識及び技能の習得と活用や思考力、判断力、表現力の育成を図るために、各教科等で身に付けた知識や技能を相互に関連付けながら、他者と協同して問題を解決しようとしたり、言語により分析し、まとめたり表現したりすることができる指導方法について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、地域や学校、児童の実態などに応じて、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習や探究的な学習、児童の興味・関心等に基づく学習など、地域の教材やさまざまな学習環境を積極的に活用し、児童の意欲を高める指導のあり方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、単元で育てたい資質・能力を明確にして、総合的な学習の時間の全体計画及び年間指導計画に基づいて、児童の活動や体験そのものを多面的に見取り、学びの深まりや児童の成長を総合的にとらえることができる学習評価のあり方について研究する。

### (13) 学級活動

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、合意形成や意思決定の方法や役割を分担して協力して実践する方法等を理解し、実践を通して人間関係の形成を図る指導のあり方について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、児童や学級・学校の実態及び発達段階や学級の課題に応じて意欲的に社会参画に関わろうとするような指導内容の重点化を図るとともに、活動の内容や指導のあり方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、事前・本時・事後の活動を通して学級活動ノートや掲示物等、児童の活動の様子や変容を見取り自己実現をめざすことのできる学習評価のあり方について研究する。

### (14) 児童会活動

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、学校生活の充実と向上を図るための課題を見だし、解決するために話し合い、人間関係をよりよく形成したり、楽しく豊かな生活をつくったりできるようにする指導方法について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、異年齢により構成される組織による自治的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、多様な他者と互いのよさを生かして協働し、よりよい学校生活をつくろうとする態度を養う指導方法について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、活動の結果だけでなく、活動の過程における児童の努力や意欲などを積極的に認めたり、児童のよさを多面的・総合的に評価したりする学習評価のあり方について研究する。

### (15) クラブ活動

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、異年齢児童による集団活動での相互の交流を深め、共通の興味・関心を追求する集団活動を通して、よりよい人間関係や社会性をはぐくみ、実践的な態度を育てることができるクラブ活動の内容や指導方法について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、互いに認め合い、協力し合い、助け合いながら、個性の伸長を図り、満足感や成就感を味わうクラブ活動の指導を通して、児童の発想や創意工夫を十分尊重し、児童自らが共通の興味・関心を、仲間と協力して自発的、自治的に追求することができる指導方法について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、クラブ活動や学級・学校生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生活の

課題を見つけ、解決を図り、自己実現を図ろうとする態度を養う学習評価のあり方について研究する。

## (16) 学校行事

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、他の特別活動との関連を図り、公共の精神の育成、異年齢集団での交流や地域の人々とのかかわり、自然・文化とのふれあい、ボランティア活動などの望ましい集団活動や感動的な体験活動を通して、効果的な指導のあり方について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、様々な学校行事の指導計画を作成し、集団への所属感や連帯意識を深めつつ、望ましい人間関係を形成し、豊かな人間性や社会性を育てる活動内容や指導方法について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、がんばりカードやふり返しカード等を活用し、自己のめあてをより明確にしたり、自己の生き方を深めることにつなげたりすることができる学習評価のあり方について研究する。

## (17) 特別支援教育

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、インクルーシブ教育システムの充実と推進に向けた、合理的配慮に基づく学習環境の整備を進めるとともに、ユニバーサルデザインを取り入れた指導・支援のあり方について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、新学習指導要領の各教科の項目に明記された「学習上の困難に応じた指導の工夫」が各校園において計画的、組織的に広く進むよう、指導・支援方法の研究を深める。

ウ 指導と評価の一体化を図り、個に応じた指導・支援のあり方を工夫するために、支援を必要とする児童の的確な実態把握に努め、合理的配慮の観点をふまえた「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を積極的に活用し、多様化する一人一人のニーズに応じた具体的な指導・支援の方法について研究する。その計画の作成・活用にあたって、特別支援教育コーディネーターを核とした校内支援体制の充実、特別支援学校のセンター的機能の活用、関係機関との連携のあり方などについて研究する。

## (18) 保健教育

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、心身の健全な発達と健康の保持増進に関する基礎的・基本的事項の主体的な理解を図り、心身の健康や感染症などの問題を自分で判断し、改善できる資質や能力を育てる指導方法について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、家庭との連携を図り、児童が身に付けた知識や技能などを日常生活に活用する実践的な態度を育てる指導のあり方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、児童の学習の達成状況を的確に評価するために、一人一人のよさを認め、それを生かすことができる学習評価のあり方について研究する。

## (19) 学校給食食育

- ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、食生活や食の選択について、正しい知識・情報に基づき、自ら管理したり判断したりできる能力を養い、食生活や食の選択についても、正しい知識・情報に基づき、自ら管理したり判断したりできる能力を養うことができる指導方法について研究する。
- イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、主体的に、自他の健康な食生活を実現しようとし、食や食文化、食料の生産等に関わる人々に対して感謝する心を育み、食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を養うことができる指導方法について研究する。
- ウ 指導と評価の一体化を図り、成果指標では、全体計画の作成時に設定した評価指標の目標値を基準に取組による変化、活動指標では、学校における食育の取組状況等における評価のあり方について研究を行い、食育計画の改善につなげる。

## (20) 生活指導

- ア 児童理解を基盤とした生活指導を推進するために、「いじめ」「不登校」をはじめとした生活指導上の諸問題及び児童への「虐待」問題について、人間尊重の教育を一層推進する観点から児童理解に努めるとともに、教育全体に関わる問題として受けとめ、全ての教育活動の中で機能する生活指導のあり方と家庭・地域・関係諸機関と連携しながら行う指導のあり方について研究する。
- イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、児童の生活背景を把握したうえで、児童の願い、悩み、不安を、単に個人の課題としてではなく、所属する集団の全ての児童が自らの課題として受けとめ、課題解決に向けて、主体的・創造的に働きかけることのできる集団へと高める指導のあり方について研究する。
- ウ 幼稚園・保育所・小学校・中学校の連携に基づく生活指導体制を確立するために、保護者や地域社会の願いを的確に受けとめ、幼稚園・保育所・小学校・中学校の連携を密にし、一人一人の幼児・児童・生徒の成長・発達に即した一貫性のある効果的な指導のあり方について研究する。

## (21) 学校図書館教育

- ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、生涯にわたって読書に親しむ資質や能力を育成し、読書を通して豊かな感性や情操を育むとともに、国語科に限らず各教科・領域等における指導との関連を図った読書活動のあり方について研究する。
- イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、学校図書館を計画的に活用し、自ら学ぶ態度の育成を図り、図書資料をはじめとする多様なメディアを生かした情報・資料を収集・選択・活用する能力を育成し、主体的な学習活動を支援する学習・情報センターとしての学校図書館のあり方をと指導方法について研究する。
- ウ 指導と評価の一体化を図り、積極的に学校図書館を活用し、意欲的に読書活動に取り組める指導と評価について研究する。

## (22) 視聴覚教育

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、ICT 機器の効果的な活用と情報活用能力を系統的に育成するための指導方法について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、視聴覚教材（デジタル教科書・NHK for School 等）を効果的に活用する指導方法について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、発達段階に応じた情報活用能力到達目標等を有効に活用する学習評価のあり方について研究する。

## (23) 新聞教育

ア 新聞に関する基礎的な知識及び技能を習得し、これらを各教科・領域などで活用する際に必要となる思考力、判断力、表現力その他の能力を育成する。そのために、新聞づくりや新聞の活用を通して、情報を整理したり、情報と情報の関係を的確にとらえたりするなど情報の扱い方の指導について研究する。

イ 児童が身に付けた知識及び技能を、各教科・領域等で主体的に生かすことができるようにする。そのために新聞教育の位置付けと新聞を生かした指導、一人一人の興味・関心や表現の工夫についての支援のあり方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、児童の学習の達成状況を評価するために、児童一人一人のよさを認め、それを生かす指導計画、題材、評価のあり方について研究する。

## (24) 国際理解教育

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、人権の尊重を基盤として、多様性と相互依存性への認識を高め、情報をクリティカルに読み解き豊かにコミュニケーションする力を育む学習活動のあり方について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、自己肯定感を高め、多様な価値や行動様式を認め他者と協働する力を育む学習活動のあり方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図るために、学習目標と評価のポイントを明確にし、行動や態度に表れた学習の成果を多角的に見取ることのできる学習評価のあり方について研究する。